

## 2019年度司書課程主催行事等報告

2019年度は演習科目に大きな変更を加えたので、学生さんたちの間にその浸透を図ることが大きな課題になった。近年、兼任講師の入れかわりが比較的多く、そのタイミングに合わせて授業内容についても新しい先生とご相談しながら改革してきている。資格付与に法的なしほりがあるので、なかなか全面的なカリキュラムの刷新というわけにはいかないているが、少しずつ、21世紀の急激なメディアの変貌に対応した内容に改めている。行事ではないが、司書課程としては大きなことなので、ここに記しておきたい。

国際的な交流も広がっている。2019年度春学期には、大学図書館経営論を専門とする高波博士（華南師範大学図書館長；経済与管理学院情報管理学部主任教授）が訪問研究員として滞在された。また2019年度一年間、修士課程の学生で、図書館史を研究しているキリアン・スタルク（Killian Stark）さんが、ルーベンカトリック大学からの特別外国人留学生として滞在された。お二人とも、受け入れは文学研究科であるが、司書課程の学習機会に積極的に参加してくださり、学生さんたちも教員も大いに刺激を受けた。また、司書課程主任の中村は、7月3日（水）に香港で開催された、前（2018）年度に香港聖公會明華神學院図書館（HKSKH Ming Hua Theological College Library）等と取り組んだ、図書館でのVRやドローンの活用、それらの利用指導を模索するプロジェクトの成果報告会「図書館学習新体験：港日交流会」に登壇した。当日は、多くの香港の聖公会関係者、中高生、教員らと交流することができた。本誌にはこのプロジェクトについて、香港聖公會明華神學院図書館司書のHelen Cheung氏に報告を寄せていただいた。そして、8月4日（日）には、本誌巻頭に記録を掲載した、国際シンポジウムを開催した。これは、札幌郊外のモエレ沼公園という遠方での開催となったこともあり、本学司書課程主催とはしなかったが、ハモンド・エレン特任教授に司会をしていただき、兼任講師の青柳啓子先生にも参加してコメントをしていただくなど、司書課程関係者に大変な貢献をしていただいて実現した。（資金は科学研究費補助金（基盤研究C；2018-2020「グローバル水準の学校図書館専門職養成カリキュラムの開発研究」による。）

昨年度に手がかりを得た立教大学図書館との連携強化は、今年度、司書課程履修生が図書館の仕事で働く機会をいただくことができ、一歩前進した。一つは池袋図書館と新座図書館の開館作業支援であり、もう一つは授業内情報検索講習会の助手、また返本支援で、最終的に十数名の学生が働きながら学んだ。来年度も同規模で継続していただけることになっている。ご指導をいただいている株式会社立教ライブラリーマネジメントの方々、立教大学図書館の職員の方々に、この場を借りて御礼を申しあげたい。ありがとうございました。

本年度は1年間をとおして、小さなFDの機会をもった。一つは、「児童サービス論」（図書館司書コース科目）と「読書と豊かな人間性」（学校図書館司書教諭コース科目）の各担当者である、青柳啓子先生と中山美由紀先生、また司書課程主任の中村を中心とした、両科目の内容や指導法に関する勉強会である。4月17日（水）、5月22日（水）、6月5日（水）、6月26日（水）、7月10日（水）、12月9日（月）の午後に2時間ほどかけて実施した。特に春学期には、日本大学や千葉大学に出講しておられる島弘先生と、本学の文学研究科に所属する布施芳一氏の出席も得ることができ、事後にはメーリングリストでも活発な意見交換、情報交換をすることができた。この他、12月13日（金）夕刻には著作権法改正に向けての勉強会、2020年1月17日（金）夕刻には、本学卒業生で、現在、イリノイ大学アー

バナシアンペーン校の図書館情報学大学院に留学中の清水陽太氏をお招きして、留学先での学習の体験についてお話をうかがう会を開いた。学生さんたちだけでなく、兼任講師の先生方も出席してくださった。

今年も年度末に兼任講師懇談会を予定していた。しかし新型コロナウイルスの感染拡大防止の流れの中で中止となってしまった。集まることはできなかったが、「情報アーキテクチャ演習」担当の安藤幸央先生のご指導のもと、Google Classroom の活用についてのオンライン・ワークショップを2020年3月に実施し、好評を博した。

授業内では、こちらも恒例となっているが、小泉世津子先生の「情報メディアの活用」で、11月30日(土)、12月14日(土)に分かれて、NHK放送センターのスタジオ見学が行われた。ハモンド特任教授の「図書館情報資源特論」では、10月11日(金)に国立国会図書館、12月6日(金)に国立公文書館、12月20日(金)に国際交流基金ライブラリーを訪れた。

(文責・中村百合子)